



農の未来ネット

NO.49
9月号

特定非営利活動(NPO)法人「農の未来ネット」
理事長：倉本器征(東京農工大学名誉教授)

発行責任者：田沼 繁(NPO法人農の未来ネット事務局：電話&FAX 042-313-3620)

編集長：西村正昭

<http://www.nou-mirai.org/index.html>

インターンシップ 参加報告記

はじめに

今年は、立正大学(熊谷キャンパス)から2名のインターンシップ生を8月19日(土)から26日(月)の8日間受け入れ、農事組合法人埼玉産直センターで研修を行いました。実習を担当された生産部の内田さん、そして、埼玉産直センター職員の皆さん、農作業実習を受けいれご指導いただいた農家の皆さん、本当のことに有難うございました。

ここに、内田さんと研修生から感想をいただきましたので、以下に掲載します。

●インターンシップ受入れ感想●

埼玉産直センター 内田孟哉さん

暑く乾燥した日が続く中、今年も我が埼玉産直センターに二人の学生が研修に来られました。3回目になる今回の研修は産地のアウ

トドアよりもインドア、『産直センターの組合員農家での生産者研修』というよりも、『埼玉産直センター内の事務局員研修』にウェイトを置き、研修生も指導担当の私自身も初めての一週間を過ごしました。

慣れないパソコンでの仕事や出荷物を取引先に用意する物の流れを積極的に学ぶ姿には指導する立場にある私自身も勉強になる事も多く、どんな仕事にも懸命に取り組む姿には感銘を受けるほどでした。研修の最後には、「11月の収穫祭にぜひお邪魔させて下さい」と嬉しい言葉をもらい、去年からの目標だった『10年続く研修』に少しでも近づくことが出来たかな?と思いました。

インターンシップ参加者感想



酒巻直也さん

(立正大学社会福祉学部社会福祉学科3年)



8月19日から26日までインターンシップで埼玉産直センターに行ってきました。当初、農業についてそこまで関心はなく、どんなことをしているかわかりませんでした。ですが、日がたつことにつれ、とてもやりが

いのある仕事だと思いました。産直センターでは、流通のお仕事や、出荷前の手伝い、11月にある毎年恒例の収穫際にむけて苗植えの手伝いなどがあり、日によっては、農家の家にお世話になることもありました。1番このインターンシップで印象に残っていることは、農業に携わっている人はみなさん優しく、温かい人が多いことです。だから農作物もおいしく育つのだと思いました。農業は1年を通して、いろいろな作物があり、手を加えれば



【写真】
何の作業かな！？

加えるほどおいしくなるものです。自分は、この経験を通して農業のイメージが変わり、人として大切なことを学んだ気がします。とても充実した1週間でした。農業について少しでも興味がある人や、知りたいことがあるなら貴社にインターンに来るべきだと思います。またそうでなくても、学べることはたくさんあるので来てほしいです。

自分たちを温かく迎えてくださった、NPO法人農の未来ネットの田沼事務局長をはじめ、産直センター木村代表、内田さんありがとうございました。

遠藤隼太さん

(立正大学社会福祉学部法学部科3年)

私は1週間という短い期間でしたが、産直センターでインターンシップの実習生としてお

世話になりました。産直センターでは、パックセンター、物流、事務、東都生協の「野菜ができるまで学ぼう」のお客様との交流会の仕事をさせていただきました。そこで学んだことは、作業スピードの速さと丁寧さと責任を持つこと。そして、お客様を大切することです。特に、交流会にいらしゃったお客様は、自分の畑をもっている人がほとんどで、農家の人に野菜作りのコツを聞いて収穫量が増えたそうです。このことを聞き、双方に利点があり良い企画だと思いました。また、3日間農家の家に行き、そこで私は農家を見て驚きました。私の農家のイメージは家族で働いて、休みがないと聞いていたのですが、実は従業員もおり、シフトなどを組んで休みがあるので、



【写真】
パックセンターで！

イメージと違いました。また大変だったこともありました。それは、1日の大半を草刈りに使ったり、半日を苗作りだけで終わったりしました。しかし、農業は他と違い自分のペースで作業したり、休憩もでき、決してつらくはなりません。また、草刈りは除草剤を使えば、簡単ですが、やらない理由は野菜のためであります。確かに大変ですが、自分自身が頑張れば頑張るほど、成果がわかるのでとてもやりがいは感じると思いました。私自身

短い期間でしたが、多くの人と交流することができ、多くのことを学ばせてもらいました。後輩たちには、農業というのはなかなか経験できることではないのでぜひ参加してもらいたいと思います。参加する価値はあり、充実しとても勉強になります。

NPO法人農の未来ネット 事務局員が最近思うこと (その1)

ヒメイワダレソウは救世主になれるか

西村正昭

私の住む埼玉県宮代町の田んぼでは8月下旬から稲刈りが始まりました。今年の2月から毎朝散歩をしながら田んぼの様子を見てきました。農家の方とも仲良くなり、米作りについていろいろと教えてもらいました。9月初旬には畦畔



【写真】

イタリアのパチカン宮殿で
(筆者)

に植わっている雑草のような花について教えてもらいました。名前は「ヒメイワダレソウ」です。きれいな小さな白い花が畦に咲き誇っています。毎日のように見てきましたが、なぜ植えたのかを知りたいと思っていました。やっと聞くことができました。雑草を抑える役割を果たすので今年から植えたといいます。周りの田んぼの畦には30センチ以上もの雑草が生えていますが、ヒメイワダレソウを植えた畦は地面に低く生えており、高く伸びた雑草も少ないのです。「雑草を刈る手間を省こうと思って植えた。景観もよくなるでしょう。散歩する人も気持ち

よく歩けるでしょう」といいます。「景観もよくなるので他の農家の方も植えてくれるようになるといい」と語ってくれました。農家の方からヒメイワダレソウが雑草対策と景観にもいいという話を聞いて、地域でどのように活用されているかを知りたくなり、さっとくインターネットで調べました。新潟県燕市や三重県いなべ市で本格的にヒメイワダレソウの生産・販売・普及に取り組み、雇用も生み出していることがわかりました。独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構や宇都宮大学の研究者が研究していることも知りました。「農業に有用な生物の多様性を維持する技術の開発」や地球緑化のための開発研究の内容を読むことができました。田んぼの畦に咲いているきれいな雑草としか見ていなかったヒメイワダレソウは、雑草対策や景観、地球緑化などに役立ち、農村地域で活用されているのを学ぶことができました。ヒメイワダレソウが雑草対策の救世主になれるかどうか、各地で普及できるのかどうかを見守っていきたいと思っています。なんにでも興味や関心を持っていると新しい知識が得られ、視野も広げられると思う今日この頃です。

生産者と消費者が支え合う関係の強化を

理事 後藤光蔵

夏休み学生たちと山形の山間地の集落を訪ね話を聞いた。少し力づけられたのは、後継者を育て頑張っている農家がいたこと、農業はしていないがここに住み続けたいという若者たちがいたことである。とはいえやはり耕作放棄地の印象は強烈だった。公式には耕作放棄地はないという。しかし保全管理や牧草でカウントされている転作地には耕作放棄地としか見えない水田も



散見された。アベノミクスの本命である成長戦略の狙いは世界で一番企業が活躍しやすい国を目指すことだという。TPPもその流れの上にある。一層の規制緩和と市場主義を理念とする施策の下で、人々の経済格差と地域格差はさらに拡大するだろう。その下でこのような地域が生きて行く道はどこにあるのだろうか。

書評を依頼されて読んだ辻村英之著『農業を買い支える仕組み フェア・トレードと産消提携』（太田出版）で、著者は公正なコーヒー取引は消費者が消費者行動や市民運動を通じてアグリビジネスに公正化を促すことでしか実現しない、つまりフェア・トレードの普及には途上国の小規模生産者や産地の支援ができることを高い「品質」とみなして高価格でも積極的に購入する「倫理的消費者」の増加が不可欠という趣旨のことを書かれている。フードシステムにおける企業の支配力の強化は先進国においても共通である。持続的な日本農業の維持のためにも、「倫理的消費者」が増え生産者と消費者が支え合う関係が強化されることがますます重要になってきている。(2013・9・15)

新事務局員です・・・よろしく

青木昂平

7月より新しく学生事務局員として加入させていただく事になりました、青木です。よろしくお願いたします。といっても、学生でいられるのはあと半年と少しですが。先日、農業と全く関わりのない友人に未来ネットの事を話したら、「よく土日農作業に行くね」と言われました。大学で農業経済ゼミに所属しているので、最初は単に作業と人との会話を通して農業の勉強をしようと思い、通い始めました。



しかし、今年2年目になって、それに加えて農場への愛着が少し芽生えてきたような感じがします。初めての経験が多い初年度と比べて、ある程度やる事が分かっているので、余裕が出てきたせいでしょうか。草取りに苦労以上の達成感を覚える事が出来たのは大きいと思います。

何十年も毎日続けている農家の方が農地に抱く感情がどのようなものなのかは、まだ全く実感出来ませんが、理解の一端になっていれば嬉しいです。

● 編集後記 ●

「築地市場を守ろう」という9・7築地パレードが9月7日に行われました。東京都中央区築地市場正面には300人が集まり、農水省までパレードしました。東京都は築地市場を廃止し、豊洲の東京ガス跡地に新しい市場を建設しようとしています。跡地は土壌汚染が深刻で、科学者も警告を発しています。石原前都政が移転計画を強行したものです。築地市場は水産市場として世界最大であり、「世界の築地」として知られています。移転にともない市場で働く1万人近い人のうち数千人が仕事を奪われてしまうそうです。築地市場は全国の生産者や商店街を守るうえで大きな役割を果たしています。消費者に安全で品質の良い食品を安定的に供給する役目も果たしてきたのです。築地市場を守ろうという思いもあって夫婦で参加しました。妻は一度も築地市場を見たことないというので早めに行って市場を案内しました。新鮮で安くて美味しい寿司屋や天ぷら屋に何十人も列をつくって待つお客さんにはびっくりしました。天ぷら丼を食べたあとパレードに参加。ドラムのリズムにあわせて「力をあわせて、守ろう、築地」「TPP 反対、農業を守ろう」などとコールしながら約1時間半パレードしました。若者たちのドラムには、今までにない盛り上がりを感じました。(西村)